

式辞

冬の寒さもようやく遠のき、春の息吹が感じられる今日の佳き日、ここに令和6年度第七十三回滋賀県立膳所高等学校卒業証書授与式を挙行することが出来ますことは、本校にとりましてこの上ない慶びとするところであります。

御来賓の皆様方には、公私ともに御多用の中、御臨席をいただき、卒業生の門出に華を添えていただきましたことに、高壇からではございますが厚くお礼申しあげます。

また、御列席いただきました保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。高校時代の様々な経験を経て成長されたお子様の姿をご覧になり、感慨も一入のことと存じます。改めまして心からお祝い申し上げますとともに、これまで、本校の教育活動に多大の御支援、御協力を賜りましたことに対しまして、教職員を代表して深くお礼申しあげます。

さて、ただ今、卒業証書を手にされた皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来、たくさんの経験を積み重ねて今日の日を迎えました。この三年間を振り返れば短く感じるかもしれませんが、それぞれの思い出となる時間は、その時に感じていた楽しさや辛さ、喜びや悲しみ、一体感や孤独感など、様々な思いが詰まった、とても濃密な時間であっただろうと思います。特に、皆さんは1年生の時は、予想もしなかった新型コロナウイルスの感染拡大によって、様々な学校行事の見直し、班活動の大会中止などを余儀なくされ、未知のものへの不安や、様々な制約の中での学校生活は窮屈で辛かったことと思います。2年生からは様々な制約がなくなり、学校生活をはじめ、班活動や修学旅行、湖風祭などでは、ようやくマスクを外した皆さんの笑顔や、膳所高生らしく何事にも全力で取り組む姿が見られ、また、多くの素晴らしい成果をあげてくれました。

さて、皆さんはこの学び舎を巣立ち、新しい世界へと進んで行くわけですが、

これからの社会は、急速に変化する世界で解決すべき新たな課題が増え、しかもその変化は先行きが不透明で、予測が難しいと言われています。感染症の世界的な流行や温暖化による大きな災害などもその一つです。そのような社会を生き抜く、あるいはそのような状況の中にあって持続可能な社会の創り手となるために大切にしてほしいことを、三つお話したいと思います。

一つ目は、「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」持つということです。東京大学の鈴木寛教授は、「人工物の大量生産はAIが担うとなると、期待される人間の役割・能力は激変する。探究心から内発的動機付けで学ぶ日本人を増やしていかなければならない。だから、探究とSTEAMと自主性、そして変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力が重要になってくる」とおっしゃっています。

予測が困難な状況を乗り越えていくためには、将来の社会の在り方について自分事として考え、より良い社会をどのように実現していきたいか、自ら目標を設定し、そのために必要な変化の実現に向けて行動することが大切になります。また、「あたりまえ」だと思っていたことに疑問を持ち、これまでの価値観や常識にとらわれず、適切でないとするならばどう変えるべきか、どうすれば変えられるのかを考える姿勢や行動力を持つことが、この時代や社会を切り拓く原動力になると思います。この際、皆さんが本校で取り組んだ探究的な学びがきっと役に立つと思います。

二つ目として、「出会いを大切にする」ということです。

「袖振り合うも他生の縁」という諺があります。「他生」とは、「多い少ない」ではなく、「ほかに生まれる」と書きます。「他生の縁」とは、道ばたで人とすれ違うとき、袖がちょっと触れ合うほどのささいなことも、前世からの深

い宿縁があると考え、出会いのご縁を大切にしようというのです。人の出会いは偶然ではなく、理由があるのだと考え、一期一会の出会いを大切にしてください。

「人は人を浴びて人になる」という言葉もあります。出会いは人を変えます。これまでの膳所高校での友人や先生との出会い、高大連携事業等でお世話になった先生方との出会い、これからの新たな人との出会い、そして新たな知見との出会いなどを大切に、これからの時代や社会を切り拓く、創り手となってほしいと思います。

三つ目は、どんな時代であれ、感謝の心を忘れないということです。以前にも話ししたことがあります、「ありがとう」の反対語は何でしたか。「ありがとう」を漢字で書くと「有り難し、あることが難しい」と書きます。ですから、反対語は「あたりまえ」ということになります。毎朝起こしてもらうこと、食事ができること、お弁当を入れてもらうことはあたりまえ、駅まで車で送ってもらうのも、友だちといつも会えるのもあたりまえ、あげ出すと切りがありません。

これまで「両親の愛情」「友情」「人の心遣い」など、「あたりまえ」だと思っていたものが「ありがたい」ことだということに改めて気付くとともに、今日は是非、ご両親やご家族の方をはじめ、お世話になった方々、友人に、「ありがとう」の言葉とともに、感謝の気持ちを伝えてください。そして、今の皆さんの感謝の気持ちを、これからの人生の様々な場面でも思い起こしてほしいと思います。「ありがとう」は自分の心を前向きにも、強くもしてくれる言葉です。さらには、他人の胸の内を考え、慮ることができれば、自分もすべての人が優しく温かくなれると思います。

最後に、竹内まりや作詞「いのちの歌」を紹介します。

生きてゆくことの意味

問いかけるそのたびに

胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ

この星の片隅で めぐり会えた奇跡は

どんな宝石よりも たいせつな宝物

泣きたい日もある 絶望に嘆く日も

そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影

二人で歌えば 懐かしくよみがえる

ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当に大事なものは 隠れて見えない

ささやかすぎる日々の中に

かけがえない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを

する時が来るけれど 命は継がれてゆく

生まれてきたこと 育ててもらえたこと

出会ったこと 笑ったこと

そのすべてにありがとう

この命にありがとう

なごりは尽きませんが、いよいよお別れの時となりました。教職員並びに在校生一同、桜の花開く季節に始まる皆さんの未来に幸多かれと心から願っています。

本校の校歌は、「聳えて立てる学び舎は、
われらが永久の故郷ぞ　ともに啓かむわが
知徳　古人の功業継ぎゆかん」と歌います。

いつまでも膳所高校は皆さんの母校です。辛くなった時には、ここで仲間や先生たちと過ごしたことを思いだしてください。そして、時代を超えて受け継がれてきた本校の精神、校訓である「遵義・力行」を胸に深く刻み込んで、この膳所高校で身に付けてきたことに自信を持ち、「ありがとう」の心を大切に、素晴らしい未来を創って行ってください。前途洋々たる皆さんの健康と活躍を祈念し、式辞といたします。

令和七年三月一日

滋賀県立膳所高等学校

校長 嬉野 公人